

# 「読み解く力」の育成に向けて 単元のゴールから時間の授業を考える

## ●単元構想シート

## ●授業ナビシート

### ①目標設定

まずは、単元目標を定めます。学習指導要領や解説をもとに、育成を目指す資質・能力を明確にします。

### ②単元構想

単元全体の流れを構想します。この段階では、各教科等で育成を目指す資質・能力が身に付けられる流れになるように構想します。

### ③目指す姿

「読み解く力」の2つの側面、3つのプロセスと照らし合わせて、目指す児童生徒の姿を思い描きます。

### ⑥本時のめあて

単元目標を踏まえて、本時のめあてを設定します。めあては、あくまでも各教科・領域等で育成を目指す資質・能力で設定します。

### ⑧「読み解く力」

本時の学習の中で、児童生徒が発揮させるであろう「読み解く力」について、2つの側面、3つのプロセスと関連付けて具体的な姿を想定しておきます。

授業ナビシートで事前に児童の反応を予測していたことが、授業中の児童の反応をしっかりと見取ることにつながったと感じられました。

研究委員



単元構想シート ○○市立△△小学 第3学年 国語科 単元名「ブックトークで『じーんとくる場面』をしようかしよう」 12時間

<p><b>単元目標</b> 育成したい資質・能力</p> <p>○心に響く場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる（読むことエ） ○本には遠い昔の時代や見知らぬ風景に出会える魅力があることに気付くことができる（知識3オ）</p>	<p><b>単元目標</b> 育成したい資質・能力</p> <p>○心に響く場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる（読むことエ） ○本には遠い昔の時代や見知らぬ風景に出会える魅力があることに気付くことができる（知識3オ）</p>
--	--

単元の流れ ○主な学習活動 □指導上の留意点

①「心の鍵文庫」を設置し、本に触れる。司書によるブックトークを聞き、冒へのイメージをもつ。  
②単元の学習内容や目的を理解し、「じーんとくる」という言葉の意味を考たり、「ちいちゃんのかげおくり」の「じーんとくる場面」を見つけたりすることを通して、学習に対する課題意識をもつ。  
③「ちいちゃんのかげおくり」のあらすじを捉える。  
④「ちいちゃんのかげおくり」の「じーんとくる場面」とそのわけを、叙述差について捉える。  
⑤「ちいちゃんのかげおくり」の「じーんとくる場面」とそのわけを、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けて考える。  
⑥ミニ会議①「ちいちゃんのかげおくり」の「じーんとくる場面」とそのわけについて、他の人と全体で共有し、自分の考えを確かめたり深たりして、よりよいわけにする。【本時】  
⑦「ちいちゃんのかげおくり」のブックトークを行い、グループで感想を有し、6年生に向けて行うブックトークへの課題意識をもつ。  
⑧「心の鍵文庫」の中から紹介する本を決め、「じーんとくる場面」とそのわけを考える。  
⑨ミニ会議②「じーんとくる場面」とそのわけを、同じ本を選んだ友達同士で共有し、よりよいわけにする。  
⑩自分や選んだ本について理解したことを基に感想をまとめる。  
⑪ブックトークの役割分担やハーバルを行う。  
⑫ブックトークを行い、単元の学びを振り返る。

「読み解く力」の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿

<p>【読み解く力】の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿</p> <p>【読み解く力】の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿</p>	<p>【読み解く力】の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿</p> <p>【読み解く力】の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿</p>
---	---

授業ナビシート（読み解く力 ver.） △△小 3年 国語科「ブックトークで『じーんとくる場面』を紹介しよう」

○単元で育成したい資質・能力

○2つの側面、3つのプロセスとの関係

①自分の心に響いた場面とそのわけを6年生に紹介するという目的をもって読書に親しむとともに、本には遠い昔の時代や見知らぬ風景に出会える魅力があることに気付くことができる。（知識及び技能3オ）  
②心に響く場面とそのわけとなる登場人物の気持ちの変化や情景を、場面の移り変わりや複数の場面の叙述と結び付けながら具体的に想像することができる。（読解力等）  
③自分の心に響いた場面やわけを紹介するために、見通しをもって粘り強く取り組み、学んだことを活かしながら、本の紹介を行うおとしている。（学びに向かう力、人間性等）

○本時のめあて（付けた力）

場面の移り変わりや複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化や情景を具体的に想像することができる。

○本時の展開（児童の反応予測・思考の流れ、板書計画等）

①見通しをもち、課題を再確認する（3分）  
②めあてをもつ（2分）  
③グループで共に学び合う（15分）  
④自分で考える（7分）  
⑤全体でともに学び合う（13分）  
⑥学習を振り返る（5分）

※課題発見・解決のプロセス 課題を見つける > 見通しをもつ > 自分で考える > 共に学び合う > 学習をまとめる > 学習を振り返る > 新たな課題を見つける

子どもが取り組みたくなるような必然性のあるゴールを設定したり、意味のある話合い、交流の場を設定したりするなど、子どもの思いに沿った単元構成になるように心掛けました。



研究委員

### ⑤全体の見直し

③で考えた児童生徒の姿が生まれるか、④で考えた手立てを講じることができるかという視点で単元全体の流れを確かめます。

### ④必要な手立て

単元全体を見渡しながら、効果的に「読み解く力」を育成するためには、どのような手立てを講じる必要があるのかを考えます。

### ⑦本時の展開

授業開始時の児童生徒の実態から、目指す姿に至るまで、思考の流れや反応を予測して、なるべく具体的に書きます。そうすることで、必要な手立てが見えてきます。

### ⑨課題発見・解決のプロセスの活用

滋賀県教育委員会が示している「課題発見・解決のプロセス」に沿って授業展開を考えることもできます。

研究内容・実践事例はこちら  
http://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1577322312536/index.html

滋賀県総合教育センター  
令和元年度研究成果情報  
「読み解く力」プロジェクト研究

